

## 1P130

## 乳幼児期の子どもと保護者を対象とした小児喘息テイラー化アプリのプロセス評価

飯尾 美沙<sup>1</sup>、佐藤 未織<sup>2</sup>、成田 雅美<sup>3</sup>、  
山本 貴和子<sup>2</sup>、永田 真弓<sup>1</sup>、大石 拓<sup>4</sup>、川口 隆弘<sup>5</sup>、  
岸野 愛<sup>6</sup>、西 凜<sup>7</sup>、大矢 幸弘<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 関東学院大学看護学部

<sup>2</sup> 国立成育医療研究センターアレルギーセンター

<sup>3</sup> 杏林大学医学部

<sup>4</sup> 高知大学医学部

<sup>5</sup> 公立昭和病院小児科

<sup>6</sup> 東京ベイ・浦安市川医療センター小児科

<sup>7</sup> 祐天寺ファミリークリニック

## 【背景】

研究者らは、過去に開発したタブレット型小児喘息テイラー化プログラム（飯尾他，2016：Iio et al., 2017）を基に、患児と保護者の喘息管理の継続を支援するスマートフォンアプリ：チャイルドアズマ（CA-SMaTA）を開発した。本研究では、開発したアプリのフィージビリティスタディの中間評価のうち、乳幼児期の患児と保護者を対象としたアプリにおけるプロセス評価について報告する。

## 【方法】

乳幼児期の患児と保護者を対象とした本アプリの内容は、喘息コントロールテスト、服薬・症状の記録、喘息知識、発作・災害への備え、喘息コントロール状態・服薬状況に応じたテイラー化メッセージの配信の5項目であった。小児専門病院2施設、大学病院、総合病院2施設、クリニックにおいて、医師から気管支喘息と診断されている乳幼児期の患児の保護者に、本アプリの定期的な利用と3ヶ月・6ヶ月時アンケートの inputs を依頼した。3ヶ月時アンケート調査は、対象者の基本属性・治療内容、アプリ内容の利用状況、アプリの継続利用を妨げている要因と継続利用につながる要因について回答を求め、項目における回答者数の割合を算出した。各施設における研究倫理審査委員会の承認を得た。

## 【結果】

協力が得られたのは保護者13名であった。患児の平均年齢は5歳、保護者の平均年齢は39.8歳、回答者の続柄は母親10名・父親3名であった。アプリ内容の利用状況は、服薬・症状の記録：77%、喘息コントロールテスト：77%、喘息知識：46%であった。継続利用を妨げる要因として、利用しづらい内容がある：46%、利用したい内容が含まれていない：23%であったものの、38%の対象者は利用を妨げている要因はないと回答した。継続利用につながる要因として、症状などの記録ができる：46%、利用方法が簡単である：38%、いつでも・どこでも利用できる：38%であったが、なしと回答した者の割合は15%であった。

## 【考察】

本アプリは小児喘息管理における継続利用に有用であることが示された一方で、利用方法やアプリ内容に関する課題が明らかになったことから、アプリの完成に向けた具体的な修正内容が示唆された。本調査結果および6ヶ月時アンケート結果を踏まえ、2021年4月にアプリ完成予定であり、今後アプリの無料公開を予定している。

## 1P131

## 食物経口負荷試験を担当する看護師の教育に関してアレルギーケアの熟練看護師が認識する困難

西田 紀子

姫路大学看護学部

## 【背景】

食物アレルギーの管理は、正しい診断に基づく必要最小限の原因食物の除去が基本である。正しい診断のためには食物経口負荷試験（以下、負荷試験）が欠かせない。負荷試験は重篤なアレルギー症状の発生のリスクの伴う検査で、医師、看護師の管理のもと実施される。

## 【目的】

負荷試験を担当する看護師の教育に関して小児のアレルギーケアの熟練看護師が認識する困難を明らかにする。

## 【方法】

アレルギーケアの熟練看護師89名を対象に郵送法による質問紙調査を実施した。質問紙には、負荷試験を担当する看護師の教育に関して困っていることを自由記載で回答してもらった。その記述内容を分類整理しサブカテゴリー化、カテゴリー化した。なお、本調査は所属機関の倫理委員会の承認を得て実施した。

## 【結果】

質問紙の自由記載への回答があった看護師は52名であった。分析の結果、3カテゴリー、9サブカテゴリーに分類された。以下カテゴリーを『』、サブカテゴリーを＜＞で示す。『症状観察と対応の教育の難しさ』は、＜症状の判断と対応を経験のないスタッフに教えることが難しい＞＜負荷試験中の急変のリスクが対するスタッフの意識が低い＞＜スタッフが必要以上に負荷試験を怖がってしまう＞で構成された。『心理社会的支援に関する教育の難しさ』は、＜負荷食物を食べたがらない子どもへの対応を教えることが難しい＞＜子どもと家族の心理的支援の必要性を理解してもらうことが難しい＞＜日常生活への支援の重要性を理解してもらうことが難しい＞＜患者教育に必要な知識とスキルを習得してもらうことが難しい＞で構成された。『教育体制の整備の難しさ』は、＜負荷試験に集中できない業務体制での教育が難しい＞＜管理者の理解不足で十分な看護師への教育体制を整備できない＞で構成された。

## 【考察】

症状の判断と対応に関して、経験が伴わない知識のみの提供では、負荷試験を担当する看護師の教育が難しいことが示唆された。症状が出現し対応した事例を共有するなど、経験不足を補う教育が必要であると考えられる。また、負荷試験で子どもが負荷食品を摂取することは心理的な負担となる。さらに、食物アレルギーは日々欠かせない食に関連した疾患である。そのため、熟練看護師は身体面のみならず心理社会的側面も含めた支援ができる看護師の育成が重要と認識していたと考える。管理者の理解を得て教育体制を整える必要があると示唆された。